

当面の技術対策（畜産編）

令和元年10月1日

発行：ゆとりみらい21農業推進協議会指導部会

1 子牛の寒さ対策

子牛は成牛に比べて寒さに弱く、体温調節能力が劣ります（気温が15℃以下で寒冷ストレスを感じ始めます）。外気温の日内変動や週内変動が激しいこの時期は、子牛にとって多大なストレスとなり、風邪や肺炎の危険性を高めます。また、冷気が子牛の腹を冷やし、下痢の原因となる場合もあります。子牛の寒冷対策は、厳冬期だけではなく、昼夜の寒暖差が激しくなる晩秋（10月～11月）から始めましょう。

- ・ 敷料が濡れていると腹を冷やすことで下痢の原因になります。夕方の作業時や作業が終わる頃に敷料の追加を行い、清潔で乾いた敷料をたっぷり入れるようにしましょう。
- ・ 夕方の作業時や作業が終わる頃に、湯たんぼの設置や電熱ヒーターを点灯させ、保温しましょう。
- ・ 牛体に直接風を当てると体温が奪われます。板などで子牛の側面3方向を囲うようにしましょう。
- ・ 保温やすきま風を防ぐことと合わせて、換気も重要になります。天気の良い日の昼間は、積極的に換気をしましょう。

2 サルモネラ症などの感染症に注意

サルモネラ症が多発する時期となっています。近年、集中豪雨などにより子牛の飼養場所に水が流れ込んでいるケースが見られます。病原菌は水の流れにのってもやってきます。農場のなかで最も弱い子牛の飼養場所を高くするなど、水が流れ込まない対策が必要です。

3 発電機の定期的なメンテナンス

台風シーズンに突入しています。自然災害の対象は畑の農作物ではありません。いつ何時、停電に見舞われるか分かりません。いざというときに、いつでも使用できるように発電機の定期的なメンテナンスを行いましょう。

サイレージ用とうもろこしの収穫作業がつづいています。心身の疲れからくる「無意識な作業」が農作業事故につながります。休憩をとることが大切です。引き続き農作業事故防止に努めましょう！